

## 再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業名 遠軽北見道路（一般国道333号） 生田原道路	事業区分 地域高規格道路	事業主体 国土交通省 北海道開発局
起終点 自：北海道紋別郡遠軽町生田原水穂 至：北海道紋別郡遠軽町生田原旭野		延長 5.7 km
事業概要 遠軽北見道路は、遠軽町から北見市に至る延長約60kmの地域高規格道路である。 このうち生田原道路は、遠軽町生田原水穂から生田原旭野に至る延長5.7kmの事業であり、広域ネットワークの拡充による地域間交流の活性化及び物流の効率化等の支援を目的とした道路である。		
H19年度事業化	H一年度都市計画決定	H20年度用地着手
H21年度工事着手		
全体事業費	約80億円	事業進捗率 8%
計画交通量		供用済延長 0.0km
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 1.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 69/76億円 (事業費: 57/63億円) (維持管理費: 13/13億円)
総便益 (残事業)/(事業全体) 117/117億円 (走行時間短縮便益: 96/96億円) (走行経費減少便益: 13/13億円) (交通事故減少便益: 7.8/7.8億円)		基準年 平成23年
感度分析の結果 (事業全体) 交通量 : B/C=1.4~1.7 (交通量±10%) (残事業) 交通量 : B/C=1.5~1.9 (交通量±10%) 事業費 : B/C=1.4~1.7 (事業費±10%) 事業費 : B/C=1.6~1.8 (事業費±10%) 事業期間 : B/C=1.5~1.6 (事業期間±20%) 事業期間 : B/C=1.6~1.7 (事業期間±20%)		
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①拠点都市間の利便性向上 ・北見市・遠軽町における、拠点都市間の利便性向上が期待される。 ②農水産品の流通利便性向上 ・オホーツクで水揚げされたホタテの流通利便性向上が期待される。 ・オホーツクで生産された生体牛の流通利便性向上が期待される。 ③救急搬送の安定性向上 ・高次医療施設への救急搬送の安定性向上が期待される。 ④災害時の緊急輸送ルートの強化 ・災害時における迅速な救急搬送や救援物資等の輸送に資する道路ネットワークが確保される。 ⑤CO2排出量の削減 ・自動車からのCO2排出量770(t-CO2/年)の削減が期待される。		
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 北見市など1市2町の首長等で構成される「遠軽北見道路整備促進期成会」等より、早期整備の要望を受けている。		
記事の意見： 広域ネットワークの拡充による連絡強化による地域間交流の活性化や物流の効率化が図られるなど、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。 なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。		

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。  
なお、3便益以外の地域の特殊性等を考慮した便益について、引き続き検討されたい。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成21年3月 新佐呂間トンネル供用
- ・平成21年10月 上湧別町と旧湧別町が合併し湧別町が誕生
- ・平成21年12月 旭川紋別自動車道 白滝IC～旧白滝供用
- ・平成22年3月 旭川紋別自動車道 上川天幕～浮島IC供用

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度に工事着手して、用地進捗率11%、事業進捗率8%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や工法等の変更はないが、引き続きコスト縮減に取り組んで行く。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。